

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果			
						4	3	2	1
一 確かな学力の定着・向上	①確かな学力の定着向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようとする。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	B	◇ 中間期同様、アンケートの結果はほとんどが肯定的である。各教科での2学期の単元テストの平均正答率は82.1%、各単元テストで平均正答率80%以上を達成できたのは、60%であった。これは、目標値は達成していないが、中間期と比べると正答率は上がっている。その反面、児童の中には、進んで学習に取り組めていないと感じている児童もいる。達成感や成就感を味わわせることが必要であるとする。 ◆ 児童が興味・関心をもつような授業内容や授業展開の工夫をし、「分かる」楽しい授業をしていく。また、児童の苦手な分野をしっかりと把握し、ICTの活用やドリル学習などの、個に合った手立てを考え、児童の達成感や成就感を高めていきたい。	教職員アンケート3-①②	17%	83%	0%	0%
					児童アンケート⑤⑥⑦	57%	39%	4%	0%
					保護者アンケート⑯	40%	60%	0%	0%
	②基本的な学習習慣を確立する。	宿題を含む家庭学習を、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	B	◇ 家庭学習の仕方や意義を伝えたり、いろいろな自主学習の仕方を紹介したりしながら家庭学習の充実を努めた。しかし、家庭学習の習慣があまり身に付いていないと感じている児童や保護者もいる。放課後、陸上練習や音楽練習があり、中間期と比べると放課後の時間が少なかったこともあるのかもしれない。何事にも進んで取り組み、学ぶことが楽しいと思える児童を育てることが課題である。 ◆ 引き続き、効果的な家庭学習の取り組み方を考え、学ぶことが楽しいと思える仕掛けづくりをしていきたい。また、進んで学習に取り組めない要因を取り除く方法についても考え、児童が前向きに学習に取り組めるよう、保護者と協力していきたい。	教職員アンケート3-⑤	17%	83%	0%	0%
児童アンケート⑦⑭⑰					29%	59%	11%	1%	
保護者アンケート③④					30%	30%	35%	5%	
学校運営協議会所見	・ 家庭学習について、中間期に続き保護者の評価が低い。家庭学習の習慣化は、児童の自覚が全てだと思う。効果的な指導を期待する。 ・ 「進んで学習に取り組めていない」と感じている児童がいることについて、その要因を把握し、改善してほしい。 ・ 各教科の平均正答率80%以上の達成率が中間期よりもよくなっている。あと少しの向上を願う。 ・ 学習内容の理解・定着については、各学年ごとに積み残しがないように徹底してほしい。「分かる」を味合わせ、学力の積み重ねを図ってほしい。	学校の対応	・ 何のために宿題をするのか、どのように家庭学習をしていくのかを保護者や児童に理解を図り、定着できるように努める。その手立ての一つとして、「家庭学習の手引き」や「自主学習の手引き」などを作成し、配付する。 ・ 「進んで学習にとりくめていない」と答えた児童は、「自分の好きな教科しか頑張っていないから」という理由からだった。自分の興味・関心の高い教科から自信を付けさせ、どの教科においても「できた」「分かった」と感じることが出来る授業をしていく。そのためには、基礎的・基本的な学習内容をしっかりと理解させることが出来る教材研究に努めていく。 ・ 極小規模校のよさを生かし、児童一人一人に、よりきめ細やかな指導をしていくことを継続しつつ、個に応じた指導の工夫にも取り組んでいく。						
二 豊かな心の育成	③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	教育相談体制を確立して児童理解に努め、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	A	◇ 教職員一同、日頃から児童の様子を意識して見たり、問題の早期発見や早期解決ができるように組織的に対応したりしている。11月には学校生活に関するアンケートを行い、児童理解に努めた。また、児童が悩んでいた不安に感じたりしていることは、複数の教員で話を聞き、迅速に対応を行った。しかし、教職員と児童の信頼関係に関して肯定的でない回答をしている児童や保護者が若干名いる。児童の頑張りを認めたり褒めたりする発言を繰り返し、保護者の方々も協力しながら、児童がより良い学校生活を送ることができるようになっていかなければならないと考える。そして、児童の小さな変化に気付くことができるように、常に危機感を持って向き合っていくことが大切だと考える。 ◆ 引き続き、児童の生徒指導上の問題について、組織的に対応していきたい。また、児童を見つめる会をより充実させ、児童理解を深め、教職員全体で児童を支えていきたい。更に、児童が相談しやすい風土を作るため、児童や保護者との信頼関係を深める努力を行うことが大切だと考える。	教職員アンケート8-①②③	23%	77%	0%	0%
					児童アンケート ①⑩⑫⑬	59%	30%	7%	4%
	④地域を活用した体験活動を充実する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 総合的な学習の時間には、漁業関係の事業所等へ見学に行き、地域の方々の努力を実感することができた。また、地域の方々を招いて、伝統文化について指導していただく活動を行った。しかし、学校が地域の教育力を活用していることに関して、わずかではあるが肯定的でない意見があった。行事や体験活動だけでなく、授業の中に地域の方々を招いた活動をもっと行うことができたのではないかと考える。 ◆ 総合的な学習の時間において、水産業に関する学習を多面的な視点から行っていくことで、地域の方々の工夫や努力の仕方がより広く深く学ぶことができるのではないかと考える。また、地域の方々を学校に招くことが難しい場合は、ICT機器を活用し、オンライン上で話を聞くことができたり、つながりを深めたりすることができる。	教職員アンケート 3-⑪ 6-④⑪⑮	6%	89%	5%	0%
					保護者アンケート⑰⑱	80%	10%	10%	0%
					地域アンケート④⑤⑧	70%	30%	0%	0%
⑤『『つながり』『挑戦』し、笑顔あふれる』学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、心を合わせて頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格のために、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習や宿題の提出を行う。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇ 校内漢字検定や算数検定など、児童が目標に向かって頑張ることができていた。目標に向かって努力したり挑戦したりしていく中で、諦めないことや集中して学習に取り組むことの大切さを感じていた。また、児童同士で喜びを共有したり、分からないことを支え合ったりする姿が見られ、児童が友達とのつながりを大切にしていると考えられる。 ◆ 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、宿題だけでなく、授業中においても既習事項の復習を継続して行いたい。児童が校内検定に合格するという目標を達成するために、努力している過程を褒めたり、家庭学習の習慣化を促したりすることで、児童の基礎学力を向上させるとともに自己肯定感を高めたい。	教職員アンケート3-②⑤	17%	83%	0%	0%	
				児童アンケート⑥	70%	30%	0%	0%	
学校運営協議会所見	児童・教職員が互いに感謝の言葉を発するよう徹底する。 「ありがとうの木」活動の充実を図る。 ※児童・教職員の100%が肯定	A	◇ 児童・教職員が互いに感謝の言葉を発することができた。また、児童に何かを手渡したり、児童同士で助け合ったりする度に感謝の言葉を発している。「ありがとうの木」活動では、感謝の言葉が書かれている葉の枚数が増えている。 ◆ 引き続き、道徳科の授業や学校生活の様々な場面で、感謝の気持ちを伝え合うことの大切さをおさえていきたい。「ありがとうの木」活動は、児童の自己肯定感が高められるように、有効活用していきたい。	教職員アンケート1-③⑤	9%	91%	0%	0%	
				児童アンケート④	54%	46%	0%	0%	
学校運営協議会所見	・ 昨年9月の台風後、児童が自主的に公園の清掃を行っていた。大人も誰一人として行っていないが、この児童の行動に感動した。豊かな心の現れだと思う。 ・ 児童の成長を感じている。一人一人を見つめ、指導や早期対応ができていたので、低評価をした児童への手立てや関わりをお願いしたい。自らの思いを表現できる場や認められる場など、少人数であるから、余計に場の活用が多くできると思う。 ・ コロナ禍で活動が制限されているが、もっといろいろな経験を積んで、強く正しい、美しい心の持ち主になってほしい。	学校の対応	・ 自己肯定感の低い児童が固定化されつつある。学校生活の中で褒めたり認めたりする場面を逃さないようにする。 ・ 全ての児童に基本的な生活習慣の定着させるために、学校と家庭との連携・協力体制を強めていく。連絡ノートやクロムブックをうまく活用し、児童一人一人について、きめ細やかな伝達内容にしていく。また、校内生徒指導カルテに記入しているが、問題点だけではなく、善行についても記録に残し、次の学年へと引き継ぎ、児童の良さを更に伸ばすことができるように努める。 ・ 保護者や児童との信頼関係が希薄にならないように、連絡・調整を強めていく。 ・ 家庭・地域・学校が連携・協働できるように、より開かれた学校づくりに努め、地域社会総がかりの教育を進めていく。						

三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上、朝運動を週2回実施	A	◇ えひめITスタジアムの縄跳び種目やボール投げ種目、リレー種目に挑戦させることにより、児童に具体的な目標をもたせ、記録を更新した時の達成感を味わわせることができた。陸上大会や校内マラソン大会に向けての練習では、意欲的に挑戦する姿が多く見られた。一方で、過程をおろそかにしてしまう児童が若干名見られた。 ◆ 動きを持続する力や、リズムよく体を動かす力が成長してきていると考える。それぞれの運動での達成感が向上心につながるよう、声掛けや結果の提示等を適切に行っていくことが大切である。結果よりも過程が大事であることを伝えていく。	新体力テスト パーフェクト自己新記録達成率	低 100%(1/1名) 中 80%(4/5名) 高 67%(4/6名)
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりして、全校児童出席日を増やす。 ※年間全校児童出席日が150日以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 保健指導等を継続して行っており、教職員・児童・保護者・地域住民のいずれも80%以上が肯定し、目標値に達している。しかし、排便習慣の乱れから、腹痛を訴えたり、授業中に排泄のため授業を抜けなければならない児童や長期休業中に生活が乱れる児童がおり、継続した指導の必要性を感じる。出席状況においては、122日に達しており、年間150日以上は可能な状況である。 ◆ 引き続き、児童に対して、保健便りや掲示板を利用して、より望ましい生活習慣の啓発や指導を行っていきたい。また、全体指導や個別指導については、全教職員で取り組んでいく。PTA全体会等において保護者と共通理解し、協力して児童の生活習慣の確立・定着を図っていくように連携していきたい。また、感染症予防対策を強化し、誰もが安全・安心な学校生活を送ることができるように取り組んでいきたい。	教職員アンケート1-②7-①②③④ 児童アンケート③⑬ 保護者アンケート⑥⑦⑫ 地域アンケート①②⑦	17% 83% 0% 0% 58% 32% 10% 0% 27% 60% 13% 0% 56% 44% 0% 0%
	学校運営協議会所見	・ 学校と保護者の連携を密にして、心身の健康の育成に努めてほしい。 ・ 結果よりも過程が大切という思いが児童にも伝わっていると思う。 ・ 児童がそれぞれの個性を理解して取り組んでいることが伺える。 ・ 基本的な生活習慣について、低評価の児童や保護者がいる。学校の取組を保護者に理解してもらえ手立てが必要なのではないだろうか。	学校の対応	・ 心身の健康づくりには、家庭との協働体制が必要である。基本的な生活習慣の定着を、学校と家庭の両方で指導・支援していくことができるように、各種便りの中に一項目は入れるようにする。 ・ ITスタジアムや新体力テストの結果を参考にして、朝運動の内容を精選したり、工夫したりして継続していく。 ・ 陸上大会や音楽発表会などの行事に向けての練習においても、児童が成就感や達成感を感じられる活動内容にしていく。 ・ 継続して、HPの更新や各種通信や便りを発行し、より多くの方々に本校の取組を知っていただく。	全校児童出席日数	122日/145日(12月末)
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意をもって対応するよう努めている。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ 昨年度よりも緩和できたとは言え、コロナ禍のため、各種行事の参加者を制限することを継続した。しかし、どの行事や授業参観も実施することができたため、教職員・保護者・地域住民のいずれも肯定的にとらえている。ホームページをはじめ、学校だよりや学級だより、保健だより等、様々な手段で学校の取組を周知しているためと考えられる。 ◆ 昨年度から、回覧板にて学校だよりを御覧いただくように変更したが、トラブルや相談などの連絡はない。従って、学校の取組の周知については、現行を継続しつつ、より確実に伝わるような手段をさらに講じるようにする。ただし、学校からの一方通行の伝達だけでなく、保護者や地域住民の方々の「思いや願い」を把握するように努め、3者がともに学校運営をしていると実感できるようにする必要があると考える。	教職員アンケート11-①③ 保護者アンケート ⑩⑭⑰⑱ 地域アンケート③④⑤⑧	59% 41% 0% 0% 80% 15% 5% 0% 75% 25% 0% 0%
	学校運営協議会所見	・ 回覧板やホームページで、学校行事や学校の取組、取組の仕方などを多くの方に理解してもらっていると思う。 ・ 学校からの情報発信は、しっかりとできていると思う。 ・ コロナ禍のため、できないことが多いが、地域の方々の協力体制はできていると思う。	学校の対応	・ ホームページや学校便り、各種通信の内容をより充実させていくとともに、学校運営協議会の活動内容も組み込んでいく。 ・ 学校運営協議会の方や協働活動協力員の方から、学校からの情報発信に対する意見や感想をより多く集め、地域の方々や保護者のニーズに合った情報発信・提供に努める。		
	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇ 2学期は、校内での研究授業の機会や、校外での研修の機会が多くあり、様々な取り組みを学ぶことができた。「対話的な学び」、「ICTの効果的な活用」などの取り組みを各教科の中で積極的に取り入れ、各教科の授業を行うことができた。 ◆ 「対話的な学び」、「ICTの効果的な活用」などに積極的に取り組んだり、教材研究や自己研修の時間を十分に確保したりして、教員の指導力を高めることが大切である。そのためには、実践を積み重ね、効果的な指導方法の共有を図り、児童の学力や表現力の向上に努めていきたい。	教職員アンケート10-①②③④	13% 87% 0% 0%
五 教職員の資質・指導力の向上	学校運営協議会所見	・ これからは、ICT機器が教育現場において大きな役割を果たしていくと思われる。 ・ 教職員の研修意欲や向上心が感じられる。指導力の向上に関する研修の積み重ねが力になると思う。 ・ 教員の指導力のスキルアップのためとはいえ、時代錯誤な事例があれば教職員の意見を重要視して変革し、児童の学力や表現力の向上に努めてほしい。	学校の対応	・ 人事のバランスのよさを生かし、互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気づき、答えを見つけていく方法などを活用し、教職員相互が高め合える体制づくりに努める。 ・ どのような内容でも「報告・連絡・相談」ができやすい、支持的風土のある職員室づくりに努めていく。 ・ ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。		
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	B	◇ 避難訓練や消火訓練、避難所開設訓練などを行ってきたが、100%肯定という結果ではなかった。児童からは、「何度も行わなければならない」「訓練経験を積むごとに考えることが増える」という意見がある。その結果、命の守り方が十分に理解できていないと自己評価したのではないかと考察する。また、土砂災害に対する施設・設備の安全性に不安を感じていたり、適正かどうかの判断がしにくかったりする方々も伺える。 ◆ 登下校指導については、常に児童の安全確保をしていく。また、命を守るための知識の習得や、児童が主体的に判断して命を守る行動がとれるような多岐にわたる訓練や座学を並行して実施していく必要がある。避難所運営実行委員会が地域主体に変更になったため、地域との合同訓練等に、児童や保護者が積極的に参加できるように協力体制を整える必要がある。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨ 児童アンケート⑱ 保護者アンケート⑫ 地域アンケート②⑥⑨	26% 74% 0% 0% 77% 16% 7% 0% 78% 32% 0% 0% 57% 43% 0% 0%
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 校舎内外の施設・設備や遊具には、日々の巡視や毎月の安全点検などで、全教職員が安全確保に努めることができています。そこで不備があったり修繕が必要であったりした場合には、その都度対応している。危機管理意識を常に持ち、子どもの命を守ることができる環境整備に努めている。 ◆ 引き続き、安全点検等を通じて児童の安全確保に努める。危険箇所については、管理職を通じて、教育委員会へ報告して対応する。今後も、避難所という視点と土砂災害警戒区域に囲まれているということを踏まえながら安全確保を行う必要がある。	教職員アンケート7-⑤	50% 50% 0% 0%
	学校運営協議会所見	・ 私たちの想定を超える自然災害は毎年のように全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしている。とりわけ、発生確率が高まっている南海トラフ大地震では、本町において最大17mの津波が発生すると予測されている。そのためにも、児童への防災学習は必須だと考える。 ・ 防災学習や防災訓練など、しっかりと対応ができていくと思う。継続を望む。	学校の対応	・ 保護者・地域・学校の3者合同避難訓練を随時実施していく。地域主体の自主防災組織の一員としての自覚を持ち、訓練への積極的な参加をするとともに、家庭にも参加・協力を呼び掛ける。 ・ 保護者や地域の方々とともに、通学路や避難道の定期的な点検・整備活動を協働できる体制づくりを継続して行っていく。	安全点検	・ 月1回実施 ・ 警報発令時に適宜実施
七 特別支援教育の充実	⑪個別の指導計画を適宜作成・活用し、指導・支援を効果的に行う。	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解のもと個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇ 校内研修会の中で、特別支援教育校内委員会を設けた。作成した個別の指導計画をもとに、2学期の取組や児童の様子について情報交換し、共通理解を図ることができた。児童の困り感を把握したり、児童とたくさん会話したりして、思いをしっかりと受け止め、個に応じた対応をすることができた。 ◆ 指導の手立てが有効であったか、経過に沿って評価・改善し、目標が達成できる個別の指導計画を作成していく。特別支援教育校内委員会の中で、密に情報交換を行い、共通理解を図りながら、よりよい支援ができるようにする。少人数学級のよさを生かし、個に応じた指導法の工夫をしていきたい。	教職員アンケート12-①②	17% 83% 0% 0%
	学校運営協議会所見	・ 引き続き、特別支援教育における適切な教育環境の確保や支援を要する児童に対するより適切な教育の実施、特別支援教育に必要な財源確保に努めてほしい。 ・ 子どもたちは、生き生きと学校生活を送ることができている。個を生かし、一人一人を見つめた指導の成果だと思ふ。 ・ 児童との会話などを通じて、互いに信頼関係が築けることを望む。	学校の対応	・ 児童理解を深める研修体制を充実させていく。 ・ 個別の教育支援計画の作成方法をより工夫することができるように、特別支援教育校内委員会の体制や活動の充実を図る。 ・ 特別支援教育の充実を図ることができる環境づくりに努める。また、他校との情報交換を密にし、最新の特別支援教育に関する情報収集を行い、指導・支援内容の工夫・改善に努める。		